

小中学校の教室にエアコンを設置

近年問題となっている、厳しい暑さの中での熱中症対策の一環として、令和2年3月までに、市内20の小中学校の普通教室と特別教室へエアコンを設置します。

設置後のエアコンの運用管理については、生徒の健康面に配慮し室内の温度を設定するなど、効率的に使用していきます。

教室の室内環境を向上

児童生徒の健康や良好な学習環境を確保するためには、教室の温度や湿度を適切に管理することが大切です。

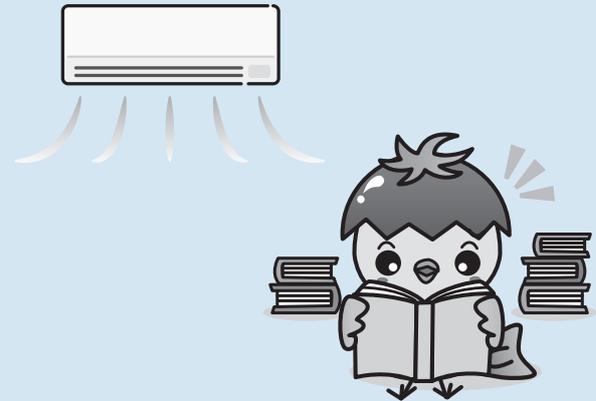
平成30年4月には、教室内の室温を「10℃以上30℃以下」から「17℃以上28℃以下」とする、学校環境衛生基準の改正が行われました。

市ではこれまで、エアコンの設置工事は多額の費用がかかることから、暑さ対策として小中学校の普通教室に扇風機を設置してきました。

今後はエアコンと扇風機を併用して使うことで、室温を均一に保つことができ快適性を保つほか、省エネ効果も期待できます。

普段から暑さ対策を心掛けよう

学校では熱中症の予防対策として、帽子の着用や水筒



の持参など、児童生徒の健康面に配慮した指導を心掛けています。

学校以外の生活でも「睡眠時間を十分に確保する」「毎日朝食を取る」「水分を小まめに取る」「外出するときは帽子を着用する」など、普段から熱中症の予防を心掛けましょう。

災害時の役割として

学校施設は災害時に避難所となることから、エアコンを設置することで、避難者がより快適に避難所生活を送れるようになります。

くわしい内容は、庶務課施設班 (☎55-5722) に問い合わせてください。

あさひ輝いた人々

第11回

千葉県の名産落花生を普及させた人

かなや そうざう
金谷 総蔵 (1845~1892年)



落花生は千葉県を代表する名産の一つです。その落花生を東総地域に普及させたのは金谷総蔵です。

弘化2(1845)年、鎌数村の代々名主を務めた家に生まれました。明治時代になり、総蔵は戸長(村長)や地租改正の総代を務めました。総蔵の住む鎌数村は生活を安定させるため、原野を切り開き、畑を作りましたが、何を栽培するかで悩みました。この地域は大昔の海であった名残で砂地のため、水を蓄えておく力に乏しく、土地は痩せていました。綿花やゴムの木を植えてみましたが失敗していました。

ちょうどそのころ、千葉県令(現在の県知事)柴原和が落花生栽培を奨励し始めました。土地の条件に合ってい

たので、総蔵はこの地域に落花生栽培を取り入れようとしたのですが、住民が栽培を嫌がりました。その理由は「背丈ばかり伸びて全然実を付けない」「変わった味がする」「花が落ちて地中で実を結ぶ作物は縁起が悪い」「栽培しても買ってくれる人はいない」など、今では考えられないようなものでした。

総蔵は砂地でもたくさん取れること、手間もあまりかからないことなどを、根気よく農民に説いて回りました。作っても買ってくれる人がいないと困るので、東京に行き、落花生の買い手を探しました。販路を確保した落花生は、総蔵の説得で栽培する人が徐々に増え、北総地域はもとより千葉県を代表する作物になりました。

明治25(1892)年に亡くなりましたが、明治39(1906)年、落花生の栽培と販売の道を開いた功績により農商務大臣表彰を受け、鎌数伊勢大神宮には「落花生の碑」が建てられました。昭和48(1973)年に千葉県が選定した「千葉県の先覚」85人の一人にも選ばれています。



落花生の碑